

令和８年度 第１回 鳴門高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

１ 日時 令和８年６月１８日(木) 午前１０時から

２ 場所 鳴門高等学校 視聴覚室

３ 会議

(１) 開会

(２) 自己紹介

(３) 任命

(４) 学校長挨拶

校長から学校運営協議会の概要の説明があった。また、地域の人から愛され、選ばれる学校を目指していくことや魅力化を推進するために４つの柱について説明した。①進路実現、②E プロ、③国際交流の充実、④部活動の充実である。今後の学校運営や教育活動に生かすための率直な意見を求めた。

(５) 事務局より説明

①本校の現状について（教務課長）

②Education プログラムの取組について（Education プログラム推進室長）

③令和７年度の取組の成果と課題について（教頭）

(６) 役員選出について

前年度に引き続き会長に村澤普恵様、副会長に鳴川校長が承認された。

(７) 協議

①スクールミッション・スクールポリシー・学校経営方針・教育課程の編成・学校評価総括評価表について

○スクールミッション・スクールポリシー・学校経営方針について校長より学校要覧に沿って説明があった。

○教育課程の編成について、全日制教務課長、定時制教頭より学校要覧に沿って説明した。

○学校評価総括評価表について、昨年度達成できなかった指標に基づき、本年度の評価表が作成されたことを踏まえ、説明した。

①については、全日制・定時制ともに特に意見等はなかった。

②熟議テーマ 「２０２９年度学区制撤廃に向けた鳴門高校の魅力化向上」について
（各委員からの意見・提言等について）

◎学区制撤廃により学力上位層が市外へ流出することが懸念される。そのため進学率を向上させてほしい。特に理工系学部への進学実績を伸ばしてほしい。徳島県内において土木や建築などの理系専門職は公務員採用試験でも倍率が低く「穴場」となっており、卒業後の就職を考えても理系の大学への進学を増やしてほしい。女子の理工系も願う。

◎卒業した生徒がどれだけ地元に着定してくれるかが重要である。そのための施策として、現在進めている Education プログラムを高く評価しており、継続して応援していきたい。

- ◎スクールポリシーである「夢をかたちにする」を一人ひとりが実現できるかが大切である。部活動においても、鳴門高校で全国を目指すという夢を叶えられる環境が必要だ。そのためには、特色選抜（育成型）の募集枠を、校長の裁量で柔軟に決定できるよう制度の緩和を県に強く働きかけてほしい。枠が広がれば、より多くの有望な生徒が集まり、結果として学校の魅力向上に繋がる。
- ◎学力低下を防ぐためにも、鳴門高校にしかない「強み」をアピールすべきである。上位層の関心が高い国際交流は重要だが、海外研修は経済的負担が重い。福島県の「ブリティッシュヒルズ」のように、国内にいながらパスポートなしで英国体験ができる施設を修学旅行などで活用することも、学校の特色あるアピールポイントになるのではないか。
- ◎多くの意見を聞き、非常に勉強になった。最終的にはスポーツと進路の両面で、生徒から選ばれる「魅力ある学校」であり続けてほしい。難しい時代ではあるが、良い方向へ進むことを期待している。
- ◎板野郡校長会を代表して意見を述べるが、上位層は普通化志向が高く、北高、板野高校への希望者が多い。板野郡方面からの生徒を確保するには、通学しやすいように JR の便数を増やすといった物理的な環境の整備が必要である。また、競技力の高い生徒の県外流出を防ぐため、地元で全国を狙える魅力的な部活動の育成が必要である。E プロに関しては、県外の大学へ進学した卒業生が地元に戻らない現状も見受けられるため、修了生が実際に徳島で教員として定着するかどうかを注視し、自分も教員への近道として発信していかなければならないと思っている。
- ◎去年の出生数は 200 人である。他校との差別化がわからない。
- ◎近隣中学校の成績上位層は、国公立大学進学を求めて徳島市内の高校を希望する傾向が強い。この状況で、鳴門高校の魅力化とあげるなら、受講生が「楽しい」と話している E プロの充実と、部活動である。部活動は、地元の子供を育てて優勝を果たすというサッカー部のような実績をしっかりとアピールしてほしい。E プロに関しては、さらに発展させてその魅力を発信していただければと思う。教員を目指すなら鳴門高校、鳴門教育大学へという道筋を示すことが、地元中学生にとっての大きな魅力になる。
- ◎選ばれる学校になるためには日々の授業の質を組織的に高めることが最重要である。第一志望への進学率向上に向け、特定の生徒に焦点を当てて「どこで躓いたか」を分析するような、小・中学校のような綿密な授業研究を検討されてもいいのではないかと考える。他校が行っていないレベルの組織的な授業改善を行うことで差別化を図り、この学校は学力を伸ばしてくれるという価値を確立してほしい。そのための時間を確保するため、慣習的な業務の削減も検討すべきである。

(8) その他

- ・議題：修学旅行の海外実施に関する件（各委員からの自由意見）

◎海外体験は文化に触れる機会となる。

◎よい思い出になるならどこでもよい。

◎愛媛県のように選択できるスタイルが可能であれば、選択させてもいい。海外に行くのはいいと思う。

◎予算が許すのであれば場所にはこだわらない。国内外を問わず選択できるのは魅力がある。

◎海外でもよい。思い出が一番。場所にこだわりはない。

◎選択性がよい。

◎韓国が良いかどうかは議論すべき。

◎中学校は実情も含めて今後アンケートをとる。小学生を沖縄へ連れて行くのはハードルが高い。
選択制は魅力的。

◎韓国に賛成。文化を学べる。韓国の高校生の英語のレベルは高く一生懸命勉強しているので、一緒に交流する機会を作り、刺激をもらって欲しい。きちんと学習する目的を持って行ってほしい。

◎若いときに文化を理解することには賛成。

・第2回学校運営協議会（11月の予定）について連絡した。

（9）閉会